

東海第二発電所

格納容器圧力逃がし装置について

審査会合における指摘事項の回答

平成 29 年 7 月
日本原子力発電株式会社

目 次

番号	項 目	審査会合日	備 考
133-1	フィルタベントへの給水系統について、薬剤の注入や水質変化も考慮した pH 管理などについて説明すること	H26. 8. 28	別紙 41
133-2	主排気筒ではなく原子炉建屋屋上からの放出とした根拠について、定量的に説明すること	H26. 8. 28	別紙 40
133-3	主排気筒とフィルタベント放出口の相関関係を説明すること	H26. 8. 28	別紙 40
133-4	オリフィスの性能について、圧力が変動したとしても、体積流量が一定の幅の中に収まることを示すこと	H26. 8. 28	別紙 6
133-5	計装設備の個数，計測不能になった場合の推定方法，監視場所の考え方を示すこと	H26. 8. 28	別紙 42
133-6	pH7～13 で維持管理することについて，構造健全性や DF の pH 依存性の観点から説明すること	H26. 8. 28	別紙 43
133-7	除去性能試験におけるエアロゾルの粒径の確からしさを示すとともに，粒径分布と DF の関係を示すこと	H26. 8. 28	別紙 44
133-8	粒径が同じでも質量が違くと慣性衝突効果に影響がでるはず。DF に及ぼす影響について考え方を示すこと	H26. 8. 28	別紙 45
133-9	OECD レポートで触れられている ACE 試験を含めて，JAVA 及び JAVA PLUS 試験のスケール適用性について説明すること	H26. 8. 28	別紙 46
133-10	耐圧強化ベントライン等へのリークの検知性や A0 弁，M0 弁の開閉の考え方を説明すること	H26. 8. 28	別紙 33
133-11	SGTS 等を含めた全体系統図を示し，フィルタベントの系統と他の系統が分離され，意図しないところに放射性物質が回り込まないということを説明すること	H26. 8. 28	別紙 33
133-12	ポンプ室を含むフィルタベント設置場所の漏えい対策を示すこと	H26. 8. 28	別紙 47
133-13	蒸気流量が 1Pd を下回った場合の流量設計の考え方について説明すること	H26. 8. 28	別紙 6
133-14	弁操作のバックアップと代替電源の確保について整理して示すこと	H26. 8. 28	別紙 33

番号	項目	審査会合日	備考
133-15	「現場」を具体的に示すこと	H26. 8. 28	別紙 48
133-16	耐圧強化ベントの弁を閉める必要性がある場合に対する実現性を説明すること	H26. 8. 28	別紙 49
133-17	A0 弁の遠隔手動操作を行う場合、試験結果を含めて実現性を説明すること	H26. 8. 28	別紙 48
133-18	二次格納施設外からの操作性及び操作位置を説明すること	H26. 8. 28	別紙 48
133-19	化学反応における反応生成物への対応について、定量的に説明すること	H26. 8. 28	別紙 50
133-20	フィルタベントを長期に使用する場合、スクラバ水の粘性の DF への影響について説明すること	H26. 8. 28	別紙 51
133-21	あらかじめ核種組成 (FP 分布) を想定し、測定した線量から速やかに核種毎の放出放射能量 (Bq 単位) を算出できるような運用を検討すること	H26. 8. 28	別紙 7
133-22	被ばく評価で地上放散を仮定しているが、ベントガスを排出する場所の高さでも実施すること	H26. 8. 28	別紙 40
133-23	ベント中の化学反応の発熱について、FCVS の性能への影響を説明すること	H26. 8. 28	別紙 50
133-24	銀ゼオライト容器内の水素滞留対策を説明すること (可搬型窒素ガス発生設備の容量について示すこと)	H26. 8. 28	別紙 52
133-25	フィルタ装置入口配管を水面より下にすることの妥当性を説明すること	H26. 8. 28	別紙 53
133-26	ベントタイミングについて、設計条件に対するマージンも考慮して、より現実的な手順を説明すること	H26. 8. 28	4. 運用方法
133-27	ベントタイミングについて、温度とガス濃度を上げているが、どこかのエリアモニタが上がってしまった等の場合の対応も考えておくこと	H26. 8. 28	4. 運用方法
133-28	MCCI が発生するケースなど、よりエアロゾルの発生に厳しい条件がないか説明すること	H26. 8. 28	別紙 36

番号	項 目	審査会合日	備 考
133-29	サプレッション・プール水位が 7.4m で格納容器スプレイを停止するとあるが、ベントラインを水没させて希ガスの減衰を期待するなどの対応を考え、希ガスとエアロゾルを合わせた全体として放射性物質の放出低減が図れる方法を検討すること	H26. 8. 28	別紙 37
133-30	水素濃度計の設置位置がフィルタベント入口側に設置されていることについて、フィルタベント出口側の窒素置換の状態把握の方法と併せて、説明すること	H26. 8. 28	別紙 34